

令和8年10月9日

保護者様

牧之原市立菅山小学校長

令和8年度 第1回 教育活動評価アンケート結果

清秋の候、保護者の皆様におかれましては、学校教育への御理解、御協力をありがとうございます。本日、前期終業式を行いました。来週から後期が始まり、子供たちの活躍を職員一同期待しています。

さて、7月には教育活動アンケートにお答えいただき、ありがとうございました。御回答いただいたアンケートの結果をお知らせいたします。

概要	児童 思う	保護者 思う
①授業が楽しいと感じている。	90.9%	89.7%
②授業の内容を理解している。	84.8%	75.9%
③自分の目標に向かって頑張っている。	82.8%	71.3%
④進んであいさつをしている。	83.3%	74.7%
⑤友達のよいところ（きらい）を見つけている。	76.8%	88.5%
⑥優しくかかわることができている。	84.8%	94.3%
⑦友達と、協力することができている。	92.9%	88.5%
⑧正しい言葉づかいをしている。	72.7%	52.9%
⑨先生と、話したり、遊んだりしている。		83.9%
⑩自分（お子様）には、よいところがある。	73.7%	100.0%
⑪学校は安心できる場所だと感じている。	89.9%	93.1%
⑫地域の人に感謝していると思う。	91.9%	74.7%
⑬職員や学校は、困った時に、相談にのってくれている。	83.8%	95.4%
⑭本年度の学校の重点目標を知っている		64.4%
⑮家庭で、ゲーム機やスマートフォン、タブレットなどで家庭のルールを決めている。		81.6%

※各数値は、各回答(強くそう思う そう思う)を合算し、割合(%)で表したものです。

本年度、本校では「やってみよう！ 伝えよう！」を重点目標に掲げ、児童が安心して様々なことに挑戦し、自分の考えや思いを伝えることができるよう、教育活動を進めています。前期は、特に「やってみよう」を意識し、児童が「まずはやってみる」「自分なりに考えて取り組む」ことを大切にしてきました。学校でめざす「⑪学校は安心できる場所だと感じている（目標 90%）」の質問で、概ね目標を達成することができました。後期も、児童一人一人が安心できる場になるような環境づくりに向けて職員一同一層取り組んでまいります。

授業について

- ・「①授業が楽しい」が 90.9%と高い一方、「②授業の内容を理解している」は 84.8%でした。楽しく学ぶことができているというよさを大切にしながら、さらに「分かった」「できた」という実感につながる授業づくりを進めていきます。

自分の目標について

- ・「③自分の目標に向かって頑張っている」は 82.8%でした。一定の肯定的な回答が得られているものの、数値目標としては十分とは言えず、児童が自分なりの目標をもち、それに向かって粘り強く取り組む姿には、さらに伸ばしていく必要があります。重点目標の実現に向けて、児童が「やってみたい」と思ったことに一歩踏み出すだけでなく、うまくいかないときにも工夫したり、最後まで取り組んだりする経験を積み重ねることが必要です。また、そうした取組を振り返る中で、「自分もやればできる」という実感や自信につなげていくことも大切です。後期は、挑戦することへの意欲を高めるとともに、一人一人が自分の成長や頑張りを実感できるような働きかけを進めていきます。

友達とのかかわりについて

- ・「⑤友達のよいところ（きらい）を見つけている」が 76.8%でした。前期に「やってみよう」と挑戦する機会をつくってきたことに加え、後期は、その経験を「自分のよさ」や「自信」に結び付けていくことが大切だと考えます。校内で取り組んでいる「きらいみつけ」などをさらに充実させ、友達や教師から認められた経験を通して、児童自身が友達のよさも自然に認めあえる風土づくりに努めていきます。
- ・「⑦友達と、協力することができている」が 92.9%「①授業が楽しいと感じている」が 90.9%「⑪学校は安心できる場所だと感じている」が 89.9%との回答でした。3つの回答から、学校が多くの子に安心できる環境の中で、友達と協力しながら楽しく活動できている場となっていると考えます。継続して、学校が安心して過ごせる場所になるように職員一同取り組んでいきます。
- ・「⑦友達と協力することができている」が 92.9%と高い一方、「⑤友達のよいところを見つけている」は 76.8%であることから、協力して活動するだけでなく、互いのよさを見つけ、それを言葉にして伝えることにも力を入れていきます。これは、前期の「やってみよう」から、後期の「伝えよう」へつなげていく上でも大切な取組と考えます。

自分のよさについて

- ・「⑩自分にはよいところがある」への児童の回答が 73.7%でした。子供自身が自分のよさを十分に認識できていない実態が見られます。したがって、単に「よいところを褒める」だけではなく、児童自身が「自分にはこんなよさがある」と具体的に自覚できるような自己理解・自己肯定につながるよう、校内で取り組んでいる「きらいみつけ」をさらに推進していきます。